稲城市住民の生活実態に関するアンケート調査
結果概要

階層格差と公共性研究会
東京大学文学部社会学研究室

■ 調査の概要

「稲城市住民の生活実態に関するアンケート」調査は、高齢社会における新たな階層理論と公共性の構築をめざす研究として文部科学省から研究助成（基盤研究(S)課題番号 20223004）を得て実施しました。

高齢社会では、非正規で働く人や引退した人など、さまざまな状況にある方が多くなり、どのように互いを支えあう社会を作っていくかが、一層重要になってきます。そこで、本研究では、壮年・高齢者を対象とした実態調査を行いました。

本調査の対象者は稲城市在住の 50 歳以上男女とし、くじ引きの方法で選んだ住民 12,000 名の方々に調査票を郵送にて配布いたしました。調査実施期間は 2009 年 10 月 19～31 日で、回収された有効票は 3,061 票（有効回収率 25.5%）でした★1。

本調査の主な質問項目は、現在およびこれまでの仕事歴、お子さんや親御さんとの関係、経済状況、近隣、友人等とのつきあい、社会的活動、介護・世話の状況、稲城市の取り組みへの関心です。

■ 回答者の概要

本報告では、在宅で生活されている 2,920 名（性別・年齢・世帯類型すべて明らかな方）について紹介します。なお、回答いただいた中で、入院中の方は 14 名、施設に入所中の方は 22 名でした。

本報告での対象者の特徴は次の通りです。女性 1,512 人（51.8%）、男性 1,408 人（48.2%）です。年齢分布は 60 代が 39.4%と最も多く、75 歳以上は 17.2%でした（図 1）。本報告では、年齢層を 50～64 歳、65～74 歳、75 歳以上の 3 つのカテゴリーとします。

対象者が生活する世帯の種類（世帯類型）は、「男性ひとり暮らし」3.9%、「女性ひとり暮らし」5.9%と、ひとり暮らし世帯は全体の 1 割弱でした。最も多い世帯の種類は親と未婚の子どもからなる「核家族世帯」39.9%。次に多いのが「夫婦のみ世帯」の 37.4%、そして「三世代世帯」6.2%でした（図 2）。

図 1．年齢分布

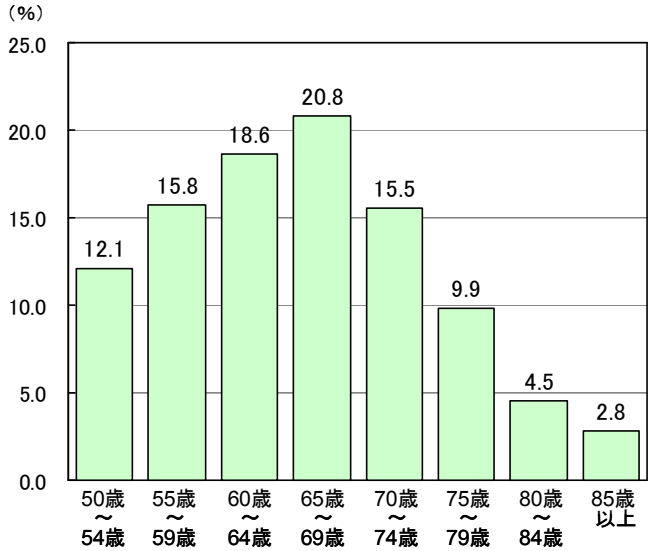
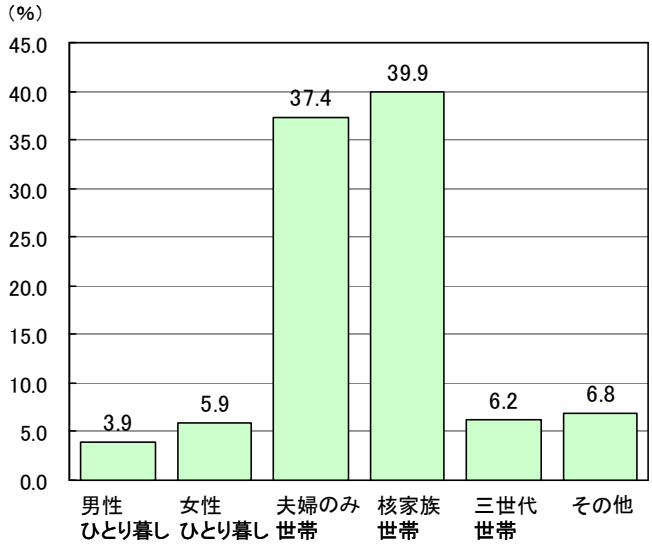


図 2．世帯類型分布



★1：本調査結果は、稲城市の 50 歳以上住民からみると、女性のひとり暮らしが少なめである一方、男性のひとり暮らしが多めになっています。

1. どれくらい活動的か

本調査では、「趣味・娯楽」、「スポーツ・運動」、「老人クラブ」、「町内会・自治会などの活動」、「ボランティア・社会奉仕活動」、「その他」の６つにわけて社会的活動状況について質問しました。それぞれの１ヶ月の平均活動日数を、３つの年齢階層別にみたのが図３です。

最も活発な活動内容は、どの年齢層においても「趣味・娯楽」と「スポーツ・運動」ですが、75 歳以上になると全体に活動頻度は低下していきます。一方、「老人クラブ」、「町内会・自治会などの活動」は、「ほとんど活動しなかった」が多数派ですが、年齢層とともに活動日数が上昇しています。老人クラブは女性、自治会等は男性による参加が多くみられます。

人々の活動は、大きく仕事と余暇（社会的活動）に分けることができます。図４は就労率（仕事ありと回答した割合）と社会的活動程度（６項目の活動日数合計）を男女に分けてみた結果です。就労率は男女で大きく異なりますが、社会的活動状況は、男女でそれほど違いはありません。

仕事の有無と社会的活動程度の関係を詳しくみてみると、特に男性については、仕事をすると社会的な活動から疎遠になる傾向があります。しかし女性については、仕事も社会的な活動も共に積極的である状況が、特に、高齢層の間でみうけられました（図省略）。

図３．年齢階層別１ヶ月の社会的活動平均日数

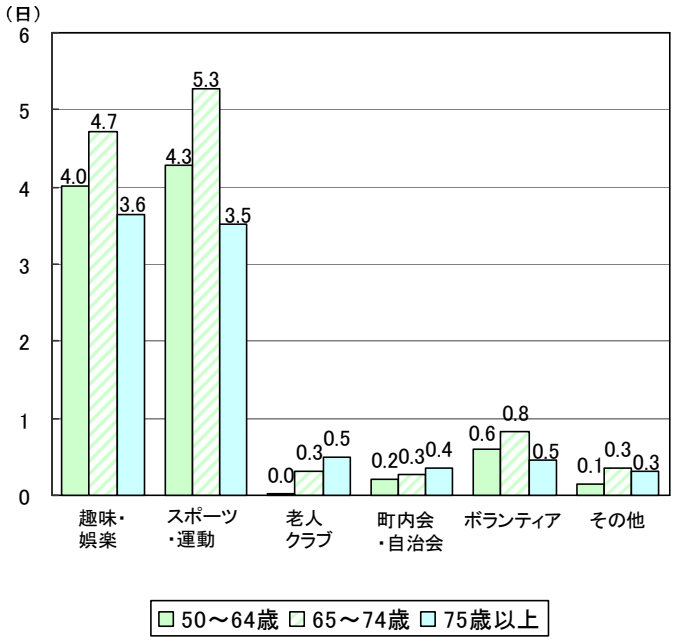
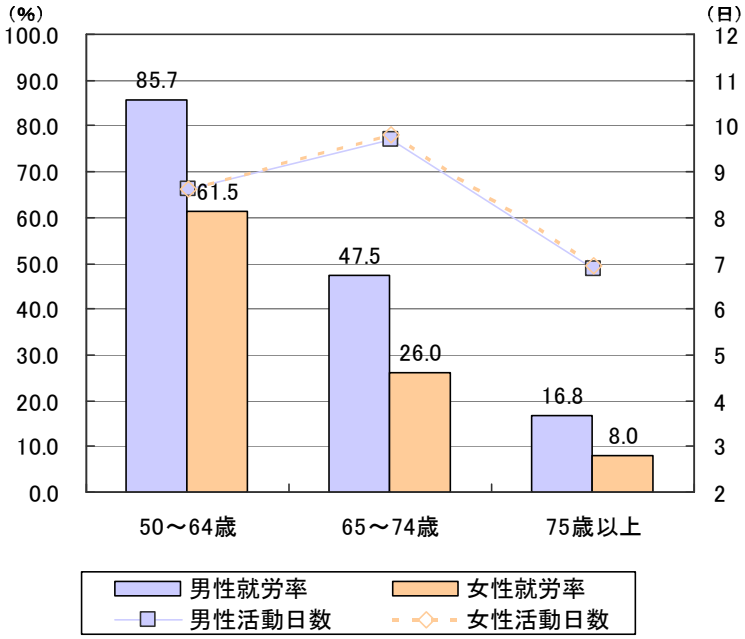


図４．男女別年齢階層別就労率と社会的活動程度



2. 社会的ネットワークの大きさ

どれくらいみなさんは、家族以外の方とおつきあいがあるのでしょうか。「友人・知人」、「近所の人」、「民生委員」、「稲城市の相談窓口」、「医師」、「ヘルパー」、「ケアマネジャー」、「保健師」等の方々とのつきあいについて質問しました。ここでは、一年のつきあい日数をつきあいの多さの目安にしています。

家族以外につきあいが多いと答えたのは、「友人・知人」、「近所の人」でした。そこで、「知人・友人」、「近所の人」に注目して、つきあい程度を世帯の種類ごとに男女それぞれについてみたのが図５と図６です。「友人・知人」とのつきあいは、男女ともにどのような世帯で暮らしていてもそれほど大きく違いません。あえていうと、女性は男性に比べて「友人・知人」とのつきあいが多いことがわかります（図６）。どのような世帯で生活しているかによって、つきあいの程度が違うのは「近所の人」です。

ひとり暮しに注目してみますと、男女で違いが認められます。男性はひとりで生活する場合、近所づきあいは他の世帯類型と比べて少ない傾向にありますが、女性はひとりで生活する場合、近所づきあいは多い傾向にあります。さらに、比較的多くの家族員と生活する三世代世帯の場合、近所づきあいも多いことがわかります。言い換えれば、家族と同居しないと近所づきあいが多くなるといったような関係にはなく、家族と同居しかつ近所づきあいも多いのです。その意味で、ひとりで暮らす男性の近所づきあいの少なさは見落とせません（図5）。

図 5.【男性】世帯類型別友人・近所とのつきあい

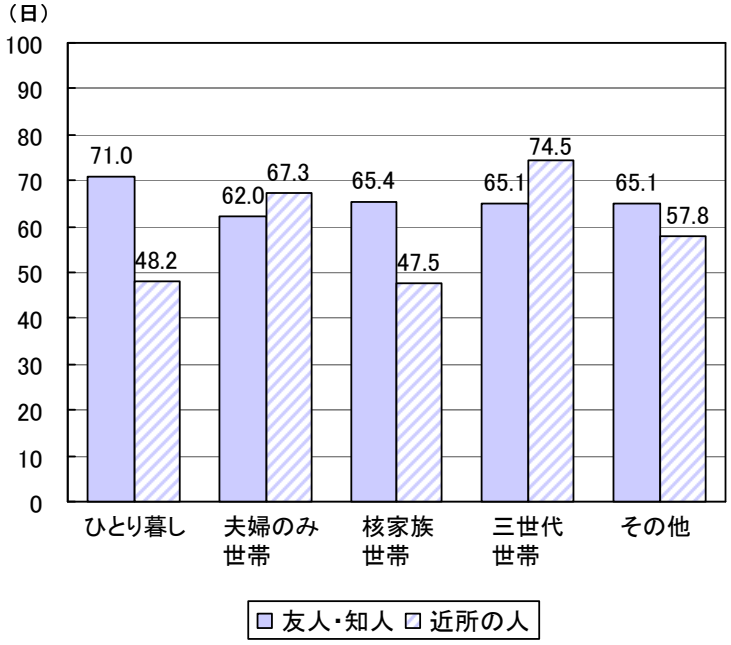
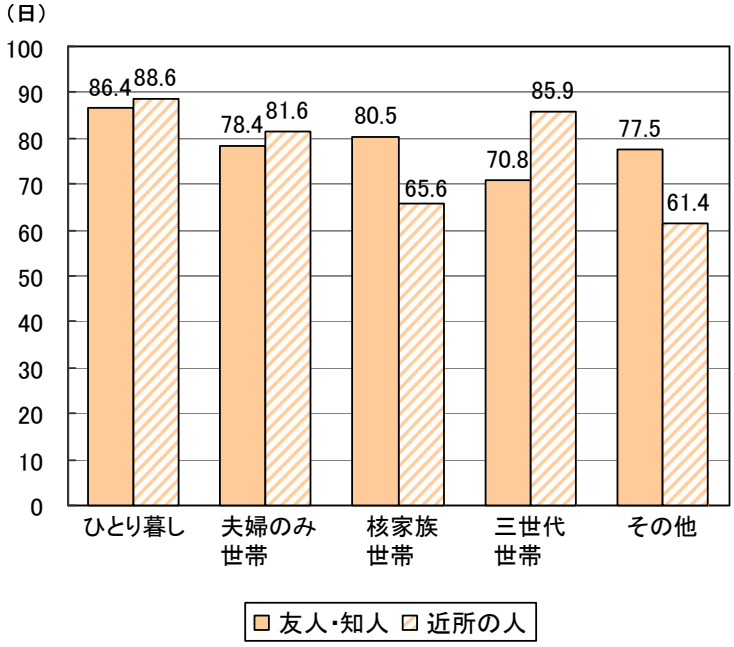


図 6.【女性】世帯類型別友人・近所とのつきあい

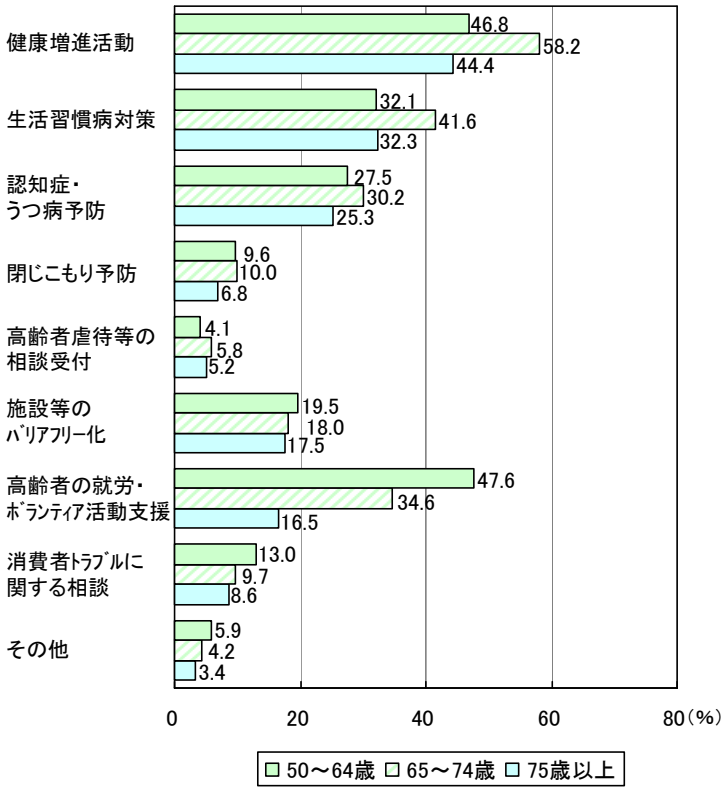


3. 稲城市の取り組みへの関心

稲城市の取り組みについて、住民の関心を聞いた結果が図 7 です。住民の方々の関心が高いのは、「健康増進活動」、「生活習慣病対策」への取り組みです。「高齢者の就労・ボランティア活動支援」への関心も高いですが、年齢とともにその関心は低下しています。それは就労意欲を反映していると考えられ、年齢が高くなるにつれて、健康等の不安も増えて仕事への関心も低下しがちです。それでも、特に 65～74 歳において働くことへの関心が高いことは注目に値します。

稲城市の取り組みへの関心の高さは、社会的活動の程度と関係があります。趣味やスポーツ等に活発な人ほど、稲城市への取り組みにも関心が高い傾向にあります。

図 7. 年齢階層別稲城市の取り組みへの関心



4. いま求められていること

稲城市の取り組みに対する関心は社会的な活動を活発にしている人ほど高く、社会的支援のニーズが高い人々の声は聞こえにくい傾向にあります。趣味やスポーツにそれほど積極的でなく、近所とのつきあいも少なくて、健康に問題がある。そのような方にとって、市の取り組みは重要なのですが、その取り組みに関心を示すまでには至らない現実が見えてきました。

言い換えれば、行政による取り組みへの関心として声をあげることのできない人の声をいかにすくい上げていくかが、今後の重要な政策課題です。稲城市はすでに高齢ひとり暮らし世帯への実態調査を行い、積極的なニーズ把握に努めています。それでも、定期的な訪問や声かけを一層充実させることが求められています。

本調査実施にあたり、稲城市住民の皆様からご協力を得たことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。